

堀田石油株式会社
海上石油有限会社
平成30年度 経営方針

平成30年3月～平成31年2月

経営理念

私達は、人と地域とエネルギーの調和ある発展を求め、生活創造産業として心豊かな人間社会の実現に貢献します。

社是

【奉仕】

私達は、仕事を通じて地域社会の人々に心を込めて
尽くします。

【友愛】

私達は、お互いに相手を心から敬い大切にします。

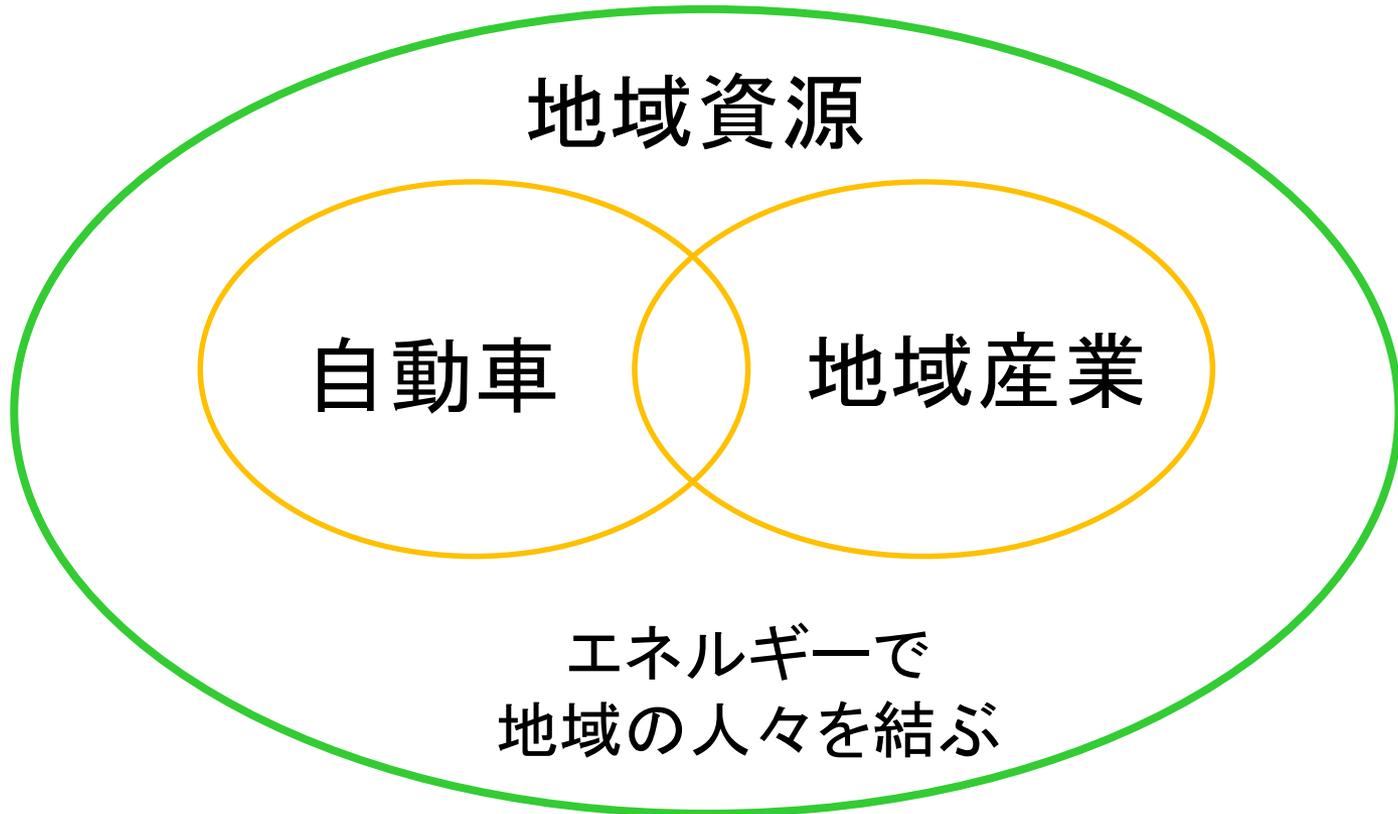
私達は、お客様をはじめ会社とかかわるすべての人
に和をもって接します。

【飛躍】

私達は、自らが発展成長することによって地域社会
に貢献し、飛躍します。

平成30年度経営方針

平成30年(2018年)は堀田石油、海上石油がこれまで培ってきた基盤を深化させるとともに、これからのエネルギー環境に対応した新しいビジネスモデルを構築するスタートの年とする。社員のみなさんも視点を高くして、広い視野で業務を遂行して下さい。



1. お客様への感謝

(1) 堀田石油のさらなるファンづくりの深化

(2) 堀田石油のブランド力の向上

(3) お客様へのサービス向上のための管理システム

(4) スーパー感謝祭の開催

(5) 現在のお客様(ENEOSカード会員、HMC会員)との関係の強化

(6) 新規のお客様の獲得

(7) 従来のチラシ、マスコミの活用に加え、インターネットやSNSでの告知、集客方法を積極的に導入する。

2. 石油エネルギーを中心とした既存の事業のさらなる深化

(1) SSビジネスにおけるさらなる効率化とサービス力の強化

(2) カービジネスの事業強化

／車検、リペアー、保険、自動車販売など

(3) 直売事業の拡大と収益確保

／水産都市境港の発展を支える

3. これからの時代に対応した新事業、新商品の開発

(1) ホームエネルギーの事業強化

／新エネルギー・環境・住設・住宅リペアーなど

(2) 将来的な新規事業の模索(ビジネスの柱となる)

／次世代モビリティサービスの可能性を探る

(3) 地域資源(地域社会)が堀田石油のビジネスの基盤であることを自覚する。(地域があつての堀田石油である)

／地域の環境、防災、活性化などへの取り組み

次世代モビリティの進化（参考資料）

主要な変化	効果・影響	具体的現象
1. コネクティッド化 (車がインターネットにつながる)	<ul style="list-style-type: none"> ・高度な運転支援 ・車両の遠隔操作 (リモートサービス) ・緊急通報 ・ビッグデータの活用 (位置、地図、車両診断) ・車両と家、オフィスの連携 (新しいサービス) ・車両のスマホ依存 ・プライバシー問題 	2025年、日本では発売されるコネクティッドカー割合 ほぼ100%
1. 電動化 (EV) ・HV ・PHV ・燃料電池車	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料油需要減少 ・車両のコモディティー化 (専売制の意義低下) ・デザイン重視 ・日本でも新しい法的規制 (道路三法) ・電池技術の重要性増加 ・車両の動く電池化 	<ul style="list-style-type: none"> ・超小型EV (MC-β) ・RIMONO
3. 車の自動走行	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故削減 (安心安全) ・販売・修理売上減少 ・高齢者・子供の移動手段 ・ドライバー不足解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・トラックの隊列走行 ・ラストマイル自動走行 (自動運転バス)
4. シェアリング (所有から利用へ)	<ul style="list-style-type: none"> ・車両非所有者の増加 ・新しいシェアサービス ・車の公共交通機関化 (モビリティサービス) ・カーディーラーの機能変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・dカーシェア ・ライドシェア ・自動配車タクシー ・個人間カーレンタル (Anycar)

4. 将来を担う人材の採用、能力開発と新本社の活用

(1) 10年先の事業展開を見据えた人材の採用と能力開発

(2) 女性社員が活躍しやすい職場づくり

(3) 新本社の活用

①働きやすく効率的

②好感度な接客

③高いセキュリティー

④顧客情報管理の徹底

⑤省エネ、環境対応のモデル

(4) 健康経営／社員の健康は健全な企業経営の源である。

(5) 会社と社員が一体となって、社会的な責任を果たし、働きやすい職場をつくる。

(6) 自動車やエネルギーについての最新情報の収集とビジネスへの展開の検討